

第2期西益津中学校区小中一貫教育推進計画

ふるさと再発見！ 夢・希望につなげ



令和7年3月

西益津中学校区学校運営協議会

目 次

I	計画策定にあたって	ページ
1	本計画の位置づけ	1
2	これまでの経緯	2
3	成果と課題	4
II	西益津中学校区小中一貫教育方針	
1	西益津中学校区で育てたい子供像	6
2	推進方法	7
3	推進形態	7
III	具体的な取組	
1	取組内容	8
IV	計画年次	
1	計画の期間	14
V	資料	
1	学校運営協議会委員	15
2	用語解説	16

I 計画策定にあたって

1 本計画の位置づけ

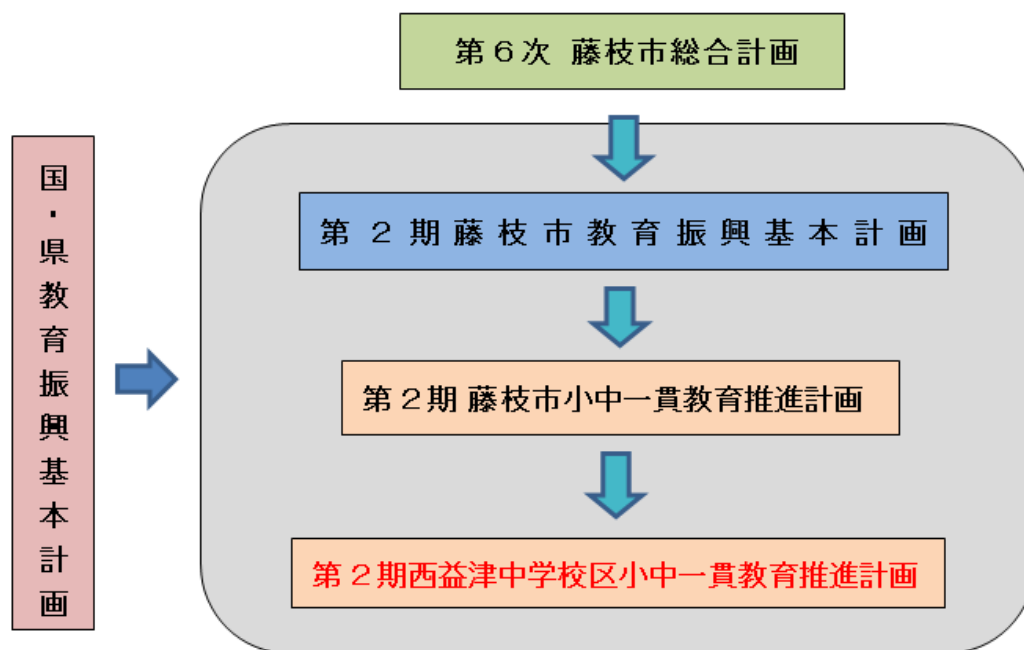
小中一貫教育は、「第6次藤枝市総合計画」における7つの基本目標の内の1つである「子供が健やかに学び、育つ藤枝づくり」における「学校教育の充実」の中の施策として、「小中一貫教育の推進」を位置づけています。

また、「第2期藤枝市教育振興基本計画（教育大綱）」においても「個が輝き、未来を切り拓く力を育む学びの充実」を目標とし、施策のひとつとして小中一貫教育の推進を掲げています。

「第2期藤枝市小中一貫教育推進計画」は、今後の本市における小中一貫教育を推進するための基本理念や基本方針及び取組事項を定めており、これを受けて中学校区ごとに小中一貫教育推進計画を策定しています。

本計画は、「中学校区小中一貫教育推進計画」の西益津中学校区版となるもので、前計画における5ヵ年計画での取組・実践を踏まえて、学校運営協議会で協議を重ね策定し、「第2期西益津中学校区小中一貫教育推進計画」として位置づけます。

西益津中学校区小中一貫教育推進計画の位置づけ



2 これまでの経緯

西益津小学校・中学校は、480年前に築城された武田氏流域郭の特長を持つ珍しい円形の田中城跡に建てられており、本市の歴史、文化の中心地に位置しています。

江戸時代に田中藩が開設した「日知館」は、文武奨励に力を入れ、水戸藩の「弘道館」と並び天下の二館と言われるほど注目された藩校でした。その歴史は脈々と受け継がれ、昭和30年代は西益津中学校が「探究学習」という学習指導研究で注目され、多くの教職員が県内外から見学に訪れました。

一方、昭和49年に県内で初めて団地内に建設された藤岡小学校は、宅地造成当時から西益津中学校区の新設小学校として、地域に見守られ、支えられ、現在に至っています。自治力の高い地域性の中でまさに地域の学校として特色ある教育が展開されています。

また、当該3校は平成19・20年に藤枝市教育委員会から小中連携研究の指定を受け、瀬戸谷地区に続いて小中連携のあり方について実践研究を積み上げ、2つの小学校が交流をしたり、教職員の合同研修会等に力を入れてきたりと、中学校区内に複数の小学校を有する地区の小中連携のあり方のモデルを示してきました。

さらに、平成23年度から始まった小中学校連携ドリームプラン事業^{※1}では、中学校音楽教員が小学校で歌唱指導を実施したり、中学生の合唱を小学生が聞いたりする機会を設ける等、歌おう活動に継続的に取り組み、合唱文化をつなげています。その成果として、中学校は合唱コンクール県大会等に出場し、数多くの受賞を果たしています。

令和5年度からは小中連携推進事業と名称を改め、これまで以上に3校が連携し、また学区内にある幼稚園とも協力関係を築きながら教育活動を進めています。

【第1期での主な取組】

①社会性の育成をめざした取組

- ・各校の取組の成果を紹介し合うオンライン会議（生徒会・児童会）
- ・自治会による防災訓練への参加（西益津中）
- ・三校合同クリスマス会（特別支援学級）
- ・中学生による地域行事へのボランティア参加
- ・小中学生の地域スポーツ行事への参加



（地区防災訓練）

②確かな学力をめざした取組

- ・ 3 校教員が授業を見合う会を通し、授業づくりの共通理解を図る
- ・ 小中共通の ALT による授業
- ・ ICT^{*2}機器の効果的な活用
- ・ 小中一貫西益津中学校区任用専科教員、中学校教員による授業

③豊かな人間性を育む取組

- ・ 西益津中学校音楽会の中間発表参観、合唱交流（西小、藤岡小）
- ・ 毎月第 1 水曜日のメディアコントロールデー
- ・ 三校共通講師によるレジリエンス^{*3}の授業（学校保健委員会）



（合唱交流 中間発表会）

④歴史文化を学ぶ取組

- ・ 地域住民をゲストティーチャー^{*4}とした地域の歴史授業（西小、藤岡小）
- ・ 田中城ウォーキング参加（西中、西小、藤岡小）
- ・ 地域住民による亀城祭の着付け支援（西小）

⑤チーム西益津としての取組

- ・ 三校教職員が集合しての年間 3 回の合同研修会
- ・ 合同研修会以外の自主的な部会の開催
- ・ 藤枝西高生による小中学生への放課後学習指導（日知塾）
- ・ 地域住民によるミシンボランティア（西小・藤岡小）
- ・ 三校合同の引き渡し訓練の実施
- ・ 年間 25 回の藤岡ふれあい教室の開催（藤岡小）
- ・ 交流センターによる亀城っ子学級の開催（西小）



（三校合同研修会）

3 成果と課題

(1) 成果

①社会性の育成

- ・小中9年間を通じた異学年交流が生徒会と児童会、特別支援学級で行われ、経験豊富な上級生から学ぼうとする姿、下級生に経験を伝えようとする姿が見られました。
- ・中学生の小学校での主体的な活動機会（読み聞かせ、あいさつ運動、運動会ボランティア）が増え、小学生が中学生を身近に感じるようになりました。
- ・中学生がボランティアとして地域行事に参加し、住民との交流を図ることができました。



（運動会ボランティア）

②確かな学力

- ・専科教員やALTの指導により、専門的かつ系統性のある学習が進められ、専科教科や外国語に興味を持つ子どもが増えました。
- ・目指す子供の姿や各校の研修テーマを共有し、継続性のある授業づくりを進めることができました。
- ・小中の教員やALTが乗り入れ*₅することで、中1ギャップ*₆を取り払い、継続した指導を行うことができました。



（小中教員によるTT授業）

③豊かな人間性

- ・学校保健委員会での継続的な三校同一講師の講演により、子供たち自身が、レジリエンスについて理解し始めています。相手との距離感やコミュニケーション能力*₇を少しずつ身につけてきています。

④歴史・文化

- ・学校運営協議会委員の専門家をゲストティーチャーとして迎え、田中城から離れている藤岡小学校の子供たちも学ぶことができました。

⑤チーム西益津

- 毎年、一校ずつ三校全職員で授業を参観、事後研修を行ってきたことで、中学校職員は小学校の、小学校職員は中学校の授業の長所を見つけ、それまでの自分たちの授業の取り組み方について振り返り、改善していこうとする動きが見られました。
- 教育連携推進事業部会を自主的に開催し、中学校卒業時の子供の願う姿を共有し、共通の手立てを協議できました。
- 学区内の藤枝西高校生と西益津中学校区の子供たちが、日知塾を通して、関わりができました。
- 健康を進める会のメンバーが、クラブ活動でスポーツの指導を行い、子供たちと交流をもつことができました。



(読み聞かせボランティア)

(2) 課題

- 令和5年度より開始したメディアコントロールデー（家読の日）の浸透を図っていききたい。
- 中学生の地域防災訓練への参画を、小学生高学年にも広めたい。
- 各校それぞれが ICT 機器の活用を進めていますが、タブレットのスキルアップについては、二小学校で連携し揃えていききたい。
- 中学生はボランティアとして、小学校の行事には多く参加できていますが、地域の行事には限られた生徒にとどまっています。今後は地域の行事にも多くの生徒がボランティアに参加するように働きかけていききたい。
- コロナ禍により中止されていた地域行事が再開されつつありますが、祭り等これまでの経験者が高齢であったり、子供の数が少なくなったりして、再開できない地区が見られます。これまで以上に地域では中学生の参加を求めているので、地域の行事等に参加できる体制づくりを進めていききたい。
- 子ども食堂では、自治会役員が生徒に活動や作業を依頼し、生徒が気持ちよく引き受ける姿があるので、引き続き災害時の避難所運営など、中学生が大きな力となれる体制づくりを図っていききたい。

Ⅱ 西益津中学校区小中一貫教育方針

1 西益津中学校区で育てたい子供像

本地区の特色といえば、かつての歴史・文化の中心地であり、教育力が高い地域であるということが第一にあげられます。このことを活かし、本市が目指す「未来を生き抜く力の育成」のために、家庭・地域・学校が協議して地域の願いを込めたキャッチフレーズと、小学校と中学校が一貫して育てたい子ども像を設定しました。

少子高齢化の流れの中で児童生徒数も減少している地域ではありますが、本地区の歴史・文化に学び、先人の知恵にふれながら、課題解決の方法を自ら見つけ、考え、実践していく、まさに温故知新の精神に加え、主体的に学ぶ子どもたちに育てていくことで、自分の生まれ育った郷土を誇りに思い、自己肯定感も醸成されていくものと考えます。

さらに互いに支え合い、思いやりあふれる人間関係づくりに努めるとともに、自立の精神と地域力を生かした様々な体験や交流を通し、一人ひとりの可能性を引き出します。

今後も、「ふるさと再発見！夢・希望につなげ」というキャッチフレーズで、家庭や地域とも目標とする姿を共有し、地域総ぐるみで子どもの育ちを支援していきます。

キャッチフレーズ

ふるさと再発見！ 夢・希望につなげ

西益津中学校区の教育を通して育てたい子ども像

自立

自ら課題を見つけ、解決しようと行動する子

共生

仲間と共に高め合う子

3校共通実践項目

- ・授業に集中、家でもくりかえし学習をしよう。
- ・楽しく歌って、仲間と心をかよわせよう
- ・進んであいさつをしよう

2 推進方法

本地区においても、第2期藤枝市小中一貫教育推進計画に合わせ、以下の項目に沿った「Ⅲ 具体的な取組」(P8～)事業を展開していきます。

第2期藤枝市小中一貫教育推進計画の推進方法

(1) 社会的資質の向上 ～ ふれあいでつなぐ ～

コミュニティ・スクールでの家庭・地域・学校等の連携・協働により、子供たちの社会参加の機会を充実させ、地域の人と触れ合う体験をする中で、自己肯定感^{*8}(自尊感情)を高め、社会を生き抜くたくましさ、社会の変化に適応する能力や社会性を育成します。

(2) 確かな学力の習得 ～ 学びをつなぐ ～

9年間を見通した系統的・継続的な学習指導や学習習慣の確立を図るとともに、コミュニティ・スクールとの連携により地域人材を活用した授業を推進し、子供の学習意欲の向上や確かな学力の習得に努めます。

(3) 豊かな人間性の育成 ～ 夢・希望をつなぐ ～

各中学校区で積み上げた教育活動、児童生徒間の多様な交流や、コミュニティ・スクールでの地域との交流等により、豊かな人間性や思いやりの心を育みます。

(4) 地域を担う人材の育成 ～ 地域でつなぐ ～

コミュニティ・スクールを通して、家庭・地域・学校等が一体となった教育環境づくりを推進し、地域に愛着と誇りを持ち地域に貢献する人材を育成します。

(5) 教職員の指導力向上 ～ 教えをつなぐ ～

小中一貫教育コーディネーターが中心となり、小中学校等の教職員が合同研修会や合同授業研修会等の交流を行うことを通して、相互理解を深め、9年間を見通した教育を展開し、子供一人ひとりの学びの保障に努めます。

3 推進形態

コミュニティ・スクール^{*9}の活動をさらに充実させ、家庭・地域・学校等が連携・協働した「地域とともにある学校づくり」の充実を目指していきます。

各学校において、小中一貫教育を推進する担当教員を「小中一貫教育コーディネーター」^{*10}として位置づけ、コミュニティ・スクールディレクターと連携しながら、小中一貫教育の更なる推進を図っていきます。

Ⅲ 具体的な取組

1 取組内容

(1) 社会的資質の向上

家庭・地域・学校の連携・協働により、子どもたちの社会参加の機会を充実させる中で、自己肯定感（自尊感情）を高め、社会性を育成します。

① 育てたい子ども像の共有化

- ・小中学校教職員、保護者、地域住民に、育てたい子ども像を広く周知し、家庭・地域・学校等が一体となった教育環境づくりを推進します。

② 対人関係能力（コミュニケーション能力）の育成

- ・学校ではふじえだ型ピア・サポート活動^{*11}を通して、お互いを思いやる心を育むとともに、集団生活を通して自己の役割を自覚し、他者を尊重しながら、人のため、社会のために貢献する意欲を育てます。
- ・地域では大人が手本となり、誰とでも声を掛け合う雰囲気づくりに努めます。

③ 地域防災を通して社会性の育成

- ・学校における防災・減災教育として、防災授業や応急処置法を体験する学習等を実施するとともに、災害から身を守るために状況に応じた避難訓練を行います。
- ・地域は、中学生を防災訓練の企画段階から参加させ、役割を与え、大人が手本を示し、一緒に活動します。

大人から学んだ体験や地域に貢献したという思いが、大人への信頼となり、大人を見習う子どもに育ちます。

- ・地域の大人が子どもとふれ合う活動を通して、社会性を育てることに努めます。

（三校合同引渡し訓練）



④ 自己肯定感・レジリエンスの醸成

- ・学校生活の様々な場で子ども一人ひとりが主体的に動く活動を推進する中で、子どもが自分に自信を持ち、何事にも積極的に取り組む姿

勢を育てます。

- ・家庭、学校、地域は、子ども一人ひとりの良さを見取った時にその場で褒め、認めることで、子どもの自己肯定感やレジリエンス（自己回復力）を高めます。



（学校運営協議会によるあいさつ運動）

（２）確かな学力の習得

藤枝市が掲げる「授業で人を育てる」の理念のもと、授業を充実させ、義務教育９年間を見通した系統的・継続的な学習指導により、子どもの学習意欲の向上や学習習慣の確立を図り、確かな学力を育成します。

① 自立的な学習者の育成

- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な学びの充実に努め、藤枝型授業モデル^{*12}に沿った授業づくりを推進します。
- ・子どもが主体的に学びに向かい、必要な情報を判断し、自ら知識を深めると同時に、対話や議論を通じて他者の考えを理解し、あわせて自分の考えを広げ深める授業づくりに努めます。

② 基礎的・基本的な知識・技能の定着

- ・教員は、藤枝市小中一貫教育カリキュラム^{*13}を活用し、教科等の系統性、連続性を踏まえながら、発達や学年の段階に応じて、基礎的・基本的な知識・技能を習得させます。
- ・家庭では、子どもがタブレット端末等を活用しながら自発的に学習する習慣が身に付くよう認め励まし、支援します。
- ・地域では、日知塾や亀城っ子学級等、児童生徒が学校や家庭以外で学ぶ場を提供します。



（日知塾）

③ **I C T機器の効果的な活用**

- ・各教科の授業でI C Tを効果的に活用し、子どもたちの学びがより豊かで広がりのあるものとなるよう、小中で情報を交換しながら研究と取組を進めます。

④ **「総合的な学習の時間」への取組**

- ・地域について「総合的な学習の時間」で小中接続カリキュラムを作成します。
- ・地域の方々をゲストティーチャーに招き、ふるさとの魅力にふれ、地域への誇りを育みます。
- ・小中合同のキャリア教育^{*14}を通じ、将来への展望を持たせます。



(小中合同キャリア教育)

⑤ **生活習慣の向上**

- ・食事、運動、睡眠を中心とした生活習慣の改善に努めます。
- ・小学校では授業開始時刻を中学校と揃え、全校外遊びの日を年間計画に位置づけ、授業との切り替えができる習慣づくりをします。
- ・中学校では自己の生活リズムを自己調整する力を養います。
- ・家庭では、睡眠時間をきちんと確保するよう声かけをします。
- ・小中同一步調でメディアコントロールデーに取り組めます。

⑥ **小学校高学年への教科担任制の導入**

- ・音楽、算数・数学、外国語等で小中学校教員の乗り入れ授業や専科教員の指導を実施します。

(3) 豊かな人間性の育成

読書活動や、児童生徒間の交流活動及び地域との交流により、豊かな人間性や思いやりの心を育みます。

① 読書活動の継続

- ・読書活動は、感動する心を育み、ものの見方や考え方を広げ心の教育を充実させます。本地区は、読書活動を継続することで子どもの自己教育力を育てます。
- ・学校ではブックリストを活用し、読書に親しむきっかけ作りに努めます。家庭では親が働きかけ、子どもが読書を楽しむ環境づくりに努めます。



(小学生への読み聞かせ)

② 小学生と中学生、保幼との交流

ア 歌を通しての交流活動

- ・中学生が小学校に出向き合唱を披露したり、小学生が中学校の「歌おう集会」を参観したりして、中学生の姿が小学生のモデルになります。
- ・小学生には年長者への憧れと尊敬の念が、中学生には年少者への思いやりと小学生の目標やモデルになろうという意識が育まれます。



(小中の合唱交流)

イ 児童会と生徒会の交流

- ・小中合同の「あいさつ運動」や、中学生による「読み聞かせ」を通し、積極的な交流を図ります。



(あいさつ運動)

- ・3校それぞれが企画する活動の連携を考えたり、3校が協議の上共通して取組む事項を決めたり、児童生徒が考える企画で小中学校の交流を実施します。

ウ 保幼小中の交流

- ・保育実習や職場体験、小中学校への探検、参観、入学体験活動等を通じて、西益津地区の子どもたちの育ちを繋げる取組を進めます。



(幼稚園での職場体験)

③ 三世代交流

- ・「地区防災訓練」「スポーツフェスタ」「ふれあいまつり」「亀城祭」など、三世代がふれ合うことを通して、誰とでも仲良くするという体験を重ね、良好な人間関係を生み出します。
- ・地域の行事を様々な世代と共に楽しみながら、他人を思いやる心や感動する心、さらには規範意識、自己有用感、協調性などの豊かな人間性を育みます。
- ・高齢者、幼稚園、保育園児との交流の機会を通し、思いやりの心を育てます。

(4) 地域を担う人材の育成

家庭・地域・学校の連携・協働により、同一步調で教育環境づくりを推進し、地域に自信と誇りを持ち地域に貢献する人材を育成します。

① 地域の一員としての自覚の醸成

- ・学校は小学校生活科や社会科、小中学校の総合的な学習の時間等で地域の歴史や文化等を地域の方に学ぶ機会を設け、地域を知り、先人の思いや地域の伝統に触れ、地域社会への関心を高めます。
- ・家庭では、親が子どもと共に地域行事等に参加し、地域の構成員としてのあり方の手本を示します。
- ・地域防災は企画段階から参画して、中学生がリーダーシップを発揮し、小学校高学



(藤岡地区 神社祭典)

年を指導しながら、防災訓練等で中心になって活躍し、中学生が防災意識の高揚と地域の一員としての役割を自覚します。

② 小中学生のボランティア活動の奨励

- ・小学校運動会への運営ボランティア参加や、幼稚園の夏祭りへのボランティア参加等を通して人のために尽くすことを体感し、社会貢献の意義を体得します。

③ 社会に開かれた教育課程の推進

- ・ふれあいまつり等の地域行事ならびに亀城祭などの運営を通じ、地域と学校が連携を深め、行事を通して子どもの地域の一員としての自覚や自主性、共生の意識を育みます。
- ・教科等の専門的分野（音楽、家庭科等）で地域の達人をゲストティーチャーに招聘したり、アドバイザーをお願いしたりして、地域の方々との絆を深めながら地域への愛着心を育みます。



（福祉教育 お出かけ支援隊）

④ 地域との交流の場の拡大

- ・ふれあいまつり、おはなし長屋、ふれあい教室、亀城っ子学級、子ども食堂等の地域の方々とのふれ合いや交流の機会を通して人の温かさにふれ、地域や地域に暮らす人々への愛着を深めます。
- ・町内会ごとの地域活動にも子どもがボランティア等で参画できるように学校・家庭・地域とのつながりを作ります。



（子ども食堂ボランティア）

(5) 教職員の指導力向上

合同研修会や合同授業研修会、小中教職員の交流を通し小中学校教職員が相互理解を深め、9年間を見通した教育を展開し、児童生徒一人ひとりの学びの保障に努めます。

① 教職員の人権感覚の醸成

- ・教職員が人権感覚をさらに磨き、広く豊かな心を持った一人の人間として子どもたちの前に立ち続けることができるよう、全職員で努力します。

② 小中合同授業研修会の実施

- ・3校が一堂に会し、授業参観を通じて授業のあり方や評価について協議します。9年間の系統性、連続性を意識しながら研修し、授業力を高めます。

③ 小中合同研修会の充実

- ・小中合同研修会では授業づくりのほか、生活指導、特別活動、地域連携、保健指導等、教育活動の系統化を図り、情報交換を重ね9年間を見通した教育を意識します。
- ・夏季研修会では講師を招聘するなどして、子どもの実態や課題に応じた研修が小中同一步調でできるよう工夫します。

④ 教職員の専門性の向上

- ・教員を他校の研究発表会や研修会等に派遣し、実践に触れる機会を設けるとともに、小中学校で情報を共有しながら互いに切磋琢磨し、指導力の向上に努めます。

⑤ 「育てたい子ども像」に向けた共通理解の促進

- ・P D C A サイクル^{*15}に基づき、子どもたちの育ちを小中学校で確認する場として合同の教育課程編成会議、拡大教務会等を開催します。

IV 計画年次

1 計画の期間

本計画は、令和7年度を初年度とし、令和11年度を目標年度とする5か年計画とします。

ただし、社会情勢の変化や国・県の施策と連動するため、基本的には5年後に見直しをしていきますが、上位計画である「第2期藤枝市小中一貫教育推進計画」と連動する中で、必要が生じた場合には随時改訂していきます。

V 資料

1 学校運営協議会委員

令和6年度西益津中学校区学校運営協議会委員名簿（敬称略）

番号	氏 名	備考
1	横山 浩	西益津地区自治会長代表
2	三好 廣志	藤岡地区自治会長
3	志村 益司	地域代表 元中学校長
4	山根 紗智子	元藤枝市教育委員長
5	山田 正代	元教員
6	松本 治雄	元小学校長
7	山内 彰広	保護司
8	秋山 一雄	地域代表
9	小池 吉徳	保護者代表（西益津小 PTA 会長）
10	藏敷 志保	保護者代表（藤岡小 PTA 会長）
11	近藤 学	保護者代表（西益津中 PTA 会長）
12	柴木 定次	学校サポーターズクラブ（西益津地区）
13	園田 晃	学校サポーターズクラブ（藤岡地区）
14	杉山 隆	西益津幼稚園副園長
15	岡田 順子	藤岡幼稚園副園長
16	飯塚 正典	西益津地区交流センター長
17	伊東 邦雄	C S ディレクター 元小学校長
18	重富 朋子	西益津小学校長
19	山下 雅史	西益津中学校長
20	小川 毅	藤岡小学校長

※令和6年度より幼稚園の代表者を加え、幼稚園との連携を図っています

2 用語解説

アルファベット

ICT（アイシーティー）【P3 *2】

Information and Communication Technology の略。コンピュータや情報通信ネットワーク（インターネット等）などの情報コミュニケーション技術のこと。社会の情報化が急速に進展する中で、学校においても、コンピュータやインターネット、デジタルカメラ、タブレット、電子黒板等の ICT が多様な学習のための重要な手段として活用されれば教育の質の向上が図れると期待されている。

PDCA サイクル【P14 *15】

典型的なマネジメントサイクルの 1 つで、計画（Plan）、実行（Do）、評価（Check）、改善（Action）のプロセスを順に実施する。

教育施策においては、目標を明確に設定し（Plan）、実施し（Do）、その成果を客観的に検証し（Check）、その結果を改善して次の教育施策に反映させる（Act）という循環サイクルのこと。

か 行

キャリア教育【P10 *14】

一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育。

ゲストティーチャー【P3 *4】

子どもの視野の拡大や専門性に触れる機会づくりのために、総合的な学習の時間や道德等で指導者として、特別に学校に招き、指導をする人。各種の職業人やボランティア活動に取り組む人、様々な趣味を持つ人など、その道の専門家が多い。

コミュニケーション能力【P4 *7】

国際社会を生き抜く異文化コミュニケーション能力、世代間コミュニケーションの問題を克服する能力、楽しい学校生活を送るための人間関係を形成していく能力など、これからの時代を生きる子どもたちにとっての基礎的な能力。

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）【P7 *9】

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、各教育委員会が地域住民、保護者などにより構成される「学校運営協議会」を設置し、学校運営や学校の課題に対して、学校と保護者や地域住民がともに知恵を出し合い、協議し、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え、「地域と共にある学校づくり」を進める仕組みのこと。

さ 行

小中一貫教育コーディネーター【P7 *10】

小中一貫教育を中心となって推進していく学校内の担当をいう。令和4年度から藤枝市内全小中学校にこの担当を配置している。コミュニティ・スクールディレクターと連携し、学校間や学校と地域を繋ぐ。高洲地区3校においては、各校の主幹教諭を小中一貫教育コーディネーターとして任命している。

小中学校連携ドリームプラン事業【P2 *1】

児童生徒の確かな成長のため、地域での9年間を意識し、同一中学校区の小中学校が連携して取り組む藤枝市独自の事業。子どもたちが夢を持ち、教員にとっても教育研究となることを目的として平成23年度から始まった。令和5年度より「小中連携推進事業」と改称した。

自己肯定感【P7 *8】

ありのままの自分を認め受け入れる感覚のことで、自分の存在そのものに対する評価のこと。「自分が自分であって大丈夫」と、自分を肯定的に受け入れる心の状態を示す。自尊感情ともいう。

た 行

中1ギャップ【P4 *6】

小学校から中学校に進学したときに、学習や生活の変化になじめず、いじめや不登校などのさまざまな困難を抱えてしまう生徒が増える現象のこと。いわゆる「問題行動等調査」の結果を学年別に見ると、小6から中1で不登校数等が急増するよう見えることから使われ始めた。

な 行

乗り入れ授業【P4 *5】

中学校教員が小学校で教科担任をしたり、ティームティーチングで指導を行ったり、小学校教員が中学校で授業を行うこと。

は 行

藤枝型授業モデル【P9 *12】

「授業で人を育てる」という藤枝市の伝統的な教育理念に基づき、9年間で学ぶ喜びを実感し、確かな学力を身につけさせることができるよう藤枝市の教職員が授業観、教育観を共有するための授業づくり指針。

ふじえだ型ピア・サポート活動【P8 *11】

児童生徒同士など同じ立場の仲間同士で思いやり支え合う実践活動。

子どものコミュニケーション能力や、思いやりの心を育むことを目的とした、子ども自身が自発的に行う活動。ボランティア清掃から友達への声かけといったさりげないものまで、「人のためになる、仲間を助ける活動」のことを指す。ふじえだ型とは思いやり溢れる学校風土を醸成していくことをねらいとし、これによって悩みを抱えたり、友だち関係をうまく結べなかったりして何らかのサポートを必要とする子どもたちへの支援につなげようとしている部分で、「人と支え合い、つながり、かかわり合う活動」を指している。

藤枝市小中一貫教育カリキュラム【P9 *13】

「授業で人を育てる」を合言葉に、藤枝市で伝統的に取り組んできた藤枝型授業を意識し、平成29年3月に改訂された新学習指導要領をベースに、藤枝市内教職員を中心に作成した小中一貫教育のための小中学校9年間における各教科の教育内容計画。藤枝市が取り組む小中一貫教育を推進する一つの柱として、学習指導のつながりを明確にし、基本的な知識及び技術の確実な習得を目指すとともに、全教職員が9年間を見据えた質の高い指導を行うことができるよう、全教科と特別支援教育分野で作成。藤枝市教職員全員に配付している。

ら 行

レジリエンス【P3 *3】

(resilience)とは困難をしなやかに乗り越え回復する力のこと。「精神的回復力」「復元力」「耐久力」などと訳される。



第2期西益津中学校区小中一貫教育推進計画

令和7年3月

西益津中学校区学校運営協議会

藤枝市教育委員会 教育政策課